

高瀬小学校 学校報

たかせ

No16

令和3年12月13日(月)

思いをカタチに

ゆたかに たくましく
かしく成長する
「たかせの子」

2年生 学活 「歯の健康教室」

【長澤先生からの講話】

3年生 総合的な学習 「羽後町たんけんたい」

4年生 学活 「おやつで元気な冬休み！」

5年生 総合的な学習 「わたしたちの生活と食料生産～SDGsの視点から～」

6年生・わかば学級 総合的な学習 「未来設計図ワークショップ」

2学期末 全校PTA

12月3日(金)の2学期末全校PTAには、おおいそがしい中にもかかわらず、昨年同様に60名もの保護者の皆さんに参加していただきました。「昨年同様」と簡単に書きましたが、昨年度よりも児童数が減っていますので、それは、さらに保護者の皆さんの関心が高まっているということに他なりません。子どもたちの姿に寄り添い、学級・学校とのつながりを大切にしてくださる保護者の皆さんには、感謝であります。職員一同、その思いに応えるべく、今後子どもたちの成長に向けて、一つ一つ前進していきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

なお、全体会でお話した「コロナ感染症対策」と、生徒指導主事及び養護教諭がお話しました「冬休みの生活」につきましては、子どもたちの命に関わることでありますので、また冬休み前に確認いただき、子どもたちとも話し合っただけであればと思います。(学校でも指導いたします。)

※感染症のことや、県外への宿泊等の予定等も含めて、何かありましたらすぐに学校へご連絡をお願いいたします。

※学校閉鎖：12月29日(水)～1月3日(月) 年末年始の学校閉鎖の期間(6日間)は、原則学校には誰もおりませんが、電話をいただいた際には“5コール後”に教頭先生に転送されますので、ご安心ください。

【授業参観の様子】

1年生 図工 「クリスマスリースをつくろう」

6年生・わかば学級 総合的な学習 「未来設計図ワークショップ」

「たかせっ子」の活躍!

羽後町「青少年の主張」作文コンクール

- 6年 原田 さん 特選
「よりよい世界の実現に向けて」
- 3年 原田 さん 入選
「今どは、ぼくが」
- 2年 渡部 さん 入選
「ぼくのくんしょう」



図書集会 : 12月8日 (水)



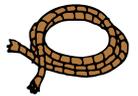
文化研修部事業「読み聞かせ」12/3



スポレクうご 小学生綱引き選手権大会



小学生綱引き選手権大会



「より良い世界の実現に向けて」

高瀬小学校

6年 原田

はら た

今年の秋、私達は学習発表会の練習に取り組むことになりました。今年「二十六夜まいり」という物語の音読劇に挑戦です。これは戦争、それも特攻隊に関わる物語です。特攻隊というものを私は初めて知りました。特攻隊とは、太平洋戦争が終わりに近づき、日本が戦いに負け始め、物資も兵隊も少なくなってきた時に、飛行機に行きの燃料だけ積んで、敵の戦艦に体当たりする攻撃を命じられた人たちのことです。その多くは、若者だったそうです。そして物語の内容はこうです。

青少年育成羽後町



お母さんと二人で鹿児島県の開聞岳のふもとにある、小さな宿で暮らしている「ちいちゃん」のところに、ある日、知覧（ちらん）基地から三人の特攻隊の若者が泊まりに来ます。精一杯もてなすお母さんとちいちゃん。そしてちいちゃんと若者達は本当の兄弟のように仲良くなります。しかし次の日の朝、若者達はちいちゃんにもらった花を胸にさし、青い空の下、体当たり攻撃のために出撃します。若者達は飛行機から花を大地にまき、入道雲のかなたへと消えていきます。まかれた花はやがて新しい芽を出し、きれいな花畑となります。それからちいちゃん達は、その花を特攻花として大切に守りながら、毎年6月の二十六夜のよいには供養の月夜参りに行くのです。

最初私は、国のために命をかけて戦うということがかっこいいと思いました。特攻隊がヒーローのように思えました。でもよく考えてみると「誰も命なんてかけたくない」「死にたくなかない」「ずっと生きていたい」と思っていたに違いありません。自分が戦わないと家族や大切な誰かが死んでしまう、家族が死ぬくらいなら自分がという覚悟だったのだと思います。国のためよりも、本当は家族のことを一番に思って戦っていたのだと思うのです。いじめや病気などを理由に生きることに疲れてしまって、自分で自分の命を絶ってしまう人は、残念ながら今の世の中でもいます。でも、特攻隊の人たちは「もっと生きていたい」「死にたくない」と思いながらも、大切な人たちを守るために命令に従い、自らの命を犠牲にしていたのだと思います。それでも、何のためにとか、誰かのためにとかの理由で失ってもいい命なんて、絶対はないと思います。どんな理由があっても、自分から命を絶つようなことは、あってはならないと思います。しかし、一度始まってしまうと、そのような何よりも大切な命をかけなければならなくなってしまうのが戦争です。音読劇の中、若者たちが出発する場面に私のセリフがあります。もう死ぬとわかっていても静かに旅立つ若者達と「また来てね」と見送る幼いちいちゃん。大好きなお兄ちゃん達が死ぬとはわかっていないことや、いずれすべてがわかるちいちゃんの気持ちを考えて演じてみたら、自然と涙が出てきました。最後の歌の中で「生きることで感じる幸せを、いつまでも大切にしたい」という歌詞を歌いながら、本当に大切なものは何かを考えていたら、また涙が出ました。

今年、社会科で今の日本は平和主義であること、非核三原則を守っていることを学習しました。しかし、となりの韓国には昔の日本のような兵役があります。休戦しているだけで、実はまだ続いている戦争もあります。核兵器を持っている国もたくさんあります。日本の近くにミサイルも飛んできます。世界全体を見ると、まだまだ平和ではないと思います。国と国との争いを、戦いではなく、話し合いで解決することはできないのでしょうか。力で自分の国を表現するのではなく、まずはお互いに相手を理解しようとする気持ちを持ち、誠実な発言や確かな行動で自分達の考えをはっきりと伝え合い、わかり合うことはできないのでしょうか。そのようなより良い世界、戦争のない世界の実現に向けて、必要なことをこれからも考えていきたいと思っています。



令和3年度「緑の募金」運動について

例年、運営委員会が中心となって、一人100円の募金活動を行って、緑化推進の意識を高める取り組みをしてきましたが、今年度は、再生資源回収の収益金から一人100円を供出させていただきますので、何卒ご理解をお願いします。

(一人一本「緑の羽根」を子どもたちに渡しました。)